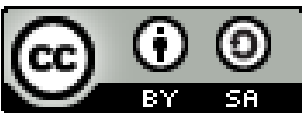




令和4年度 長野県図書館協会専門研修
ステップアップ研修 No.5

共に考え、実践につなげよう 「デジタルと紙のベストミックスで目指す図書館の未来とは？」



2023年1月31日 (火)
県立長野図書館 森 いづみ

研修の趣旨

- 皆さんは、これからの図書館の姿をどのようにイメージしていますか？
 - ✓ 安心できる居場所？
 - ✓ 読書や対話によって知識や体験が得られる交流の場？
 - ✓ 課題解決を後押ししてくれる所？…変化の激しい社会情勢の中、地域で暮らす人々にとって、図書館はどのような存在になっていくのでしょうか。
- 2022年8月の出来事 その①
 - ✓ 長野県民は、だれでも、いつでも、どこからでも使える、市町村と県による協働電子図書館「**デジとしよ信州**」と、専門書を中心とした「**県立長野図書館電子書籍サービス**」が同時スタート！
 - ✓ 「デジとしよ信州」は、夏のDigi田甲子園への出場がきっかけで、「デジタルの日」広報ポスターに採用され、「**徒歩0分。図書館の近さが、本を身近にする。**」というキャッチコピーが注目されました。



研修の趣旨

● 2022年8月の出来事 その②

- ✓ 県内市町村図書館をはじめとする文化施設・社会教育施設を介して、信州の暮らしから生み出されたコンテンツを蓄積・公開できる「**信州デジタルcommons**」が、**デジタルアーカイブジャパン・アワード**を受賞しました。
- ✓ ジャパンサーチとの「つなぎ役」や、「二次利用しやすい形での情報公開」を評価していただきました。

<https://blog.nagano-ken.jp/library/>



● これまでの図書館サービスに、デジタルの力を生かした新しい取組をミックスしたら、どんな姿が見えてくるでしょうか？

- ✓ **デジタルと紙のベストミックス**は、きっとそれぞれの地域の特色や、暮らす人によって、さまざまな姿をしているのかもしれません。
- ✓ 身近なところから“**ちょっと未来の図書館**”を共に考え、一步を踏み出すきっかけにしましょう！

研修の趣旨

**「電子書籍」も「デジタルアーカイブ」も、みんなで活用できる共有財産
使わない手はありません！**

ということで・・・

● 本日の研修の目標

- ✓ 受講生の皆さんお一人お一人に、「これをやってみたい！」という、具体的なことを見つけ、持ち帰っていただくこと。
- ✓ そして、職場に帰って（現実に打ちのめられそうになっても！？）、身近な誰かに「やってみたい」ことを話して、実際に一步を踏み出してもらうこと。

小さいこと、ちょっとしたことで、大丈夫！

いろいろ考えたり、ワークしたりする時間も、設けたいと思います

始めのワーク

①あなたが今働いている図書館が属している、自治体や学校、図書館が掲げている目標を教えてください

⇒目標を記入してください（今、ネットで調べてもOKです）

**②「デジタルと紙のベストミックスで目指す図書館の未来とは？」
と問いかけられて、
あなたは、どんな風景、人々の姿をイメージしましたか？**

⇒イメージしたことを、お手元のワークシートに記入してください。

③イメージしたことと、今の図書館との間にギャップはありますか？

⇒ギャップがあるとしたら、それはどんなことですか？

⇒ギャップを乗り越えるために何が必要だと思いますか？

ちょっと未来の、或る日の図書館のできごと：それぞれの暮らしの中で

中高生

勉強のため
友達と
来館



休憩がてら
館内を
ブラブラ



ジュニア向け
プログラミング
教室をみかける



参加はしないけれども
気になったので新しく始まった
サービスでプログラミングの電子
書籍を借りてタブレットで読む

働く世代

休日、
子どもの
本を借りに
来館



子どもは
ジュニア向け
プログラミング
教室に参加



コーヒーの
香りが
するので、
覗いてみる



地域の居場所
づくりを考える
イベントに
飛び入り参加



イベント後、
窓口で調査・
相談し、本を
借りる

シニア世代

地域の居場所
づくりを考える
イベントに参加
するため来館



イベントで
電子書籍や
地域資料の
デジタルアーカイブ
を知る



そういえば
家の蔵に
先代が撮った
写真があったなあ



地域を学ぶ材料に
使ってもらいたい
なんなら
デジタルアーカイブ？

或る日の図書館のできごとに見る「予想外の発見」や「緩いつながり」

7

中高生

勉強のため
友達と
来館

自習

休憩がてら
館内を
ブラブラ

居場所

ジュニア向け
プログラミング
教室をみかける

気付き

新サービス

参加はしないけれども
気になったので新しく始まった
サービスでプログラミングの電子
書籍を借りてタブレットで読む

働く世代

休日、
子どもの
本を借りに
来館

本貸出

子どもは
ジュニア向け
プログラミング
教室に参加

気付き・参加

コーヒーの
香りが
するので、
覗いてみる

気付き

地域の居場所
づくりを考える
イベントに
飛び入り参加

参加

イベント後、
窓口で調査・
相談し、本を
借りる

本貸出

シニア世代

地域の居場所
づくりを考える
イベントに参加
するため来館

参加

イベントで
電子書籍や
地域資料の
デジタルアーカイブ
を知る

新サービス

そういえば
家の蔵に
先代が撮った
写真があったなあ

地域を学ぶ材料に
使えないか
デジタルアーカイブ
に載せられる？

企画の芽

或る日の図書館のできごとに見る「司書」「図書館」の姿・・・？

中高生

勉強のため
友達と
来館



休憩がてら
館内を
ブラブラ



ジュニア向け
プログラミング
教室をみかける



参加はしないけれども
気になったので新しく始まった
サービスでプログラミングの電子
書籍を借りてタブレットで読む

目的に応じたエリアの設置・ゾーニング

プログラミング教室を
企画した人のサポート

新サービスの企画立案、システム構築

働く世代

休日、
子どもの
本を借りに
来館



子どもは
ジュニア向け
プログラミング
教室に参加



コーヒーの
香りが
するので、
覗いてみる



地域の居場所
づくりを考える
イベントに
飛び入り参加



イベント後、
窓口で調査・
相談し、本を
借りる

参加の呼びかけ

場づくり・フォローアップ

選書、調査・相談

シニア世代

地域の居場所
づくりを考える
イベントに参加
するため来館



イベントで
電子書籍や
地域資料の
デジタルアーカイブ
を知る



そういえば
家の蔵に
先代が撮った
写真があったなあ



地域を学ぶ材料に
使えないか
デジタルアーカイブ
に載せられる？

課題を知って連携企画・ファシリテート

新サービスのアナウンス

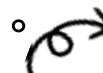
イベントや活動を企画したい人のサポート

或る日の図書館のできごと：図書館として目指していることとの関係性

県立長野図書館の「ミッション・ビジョン」共知・共創の広場（2021年7月16日策定）

事業計画（Action Plan）

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/96/r4_gaiyou_ocr.pdf

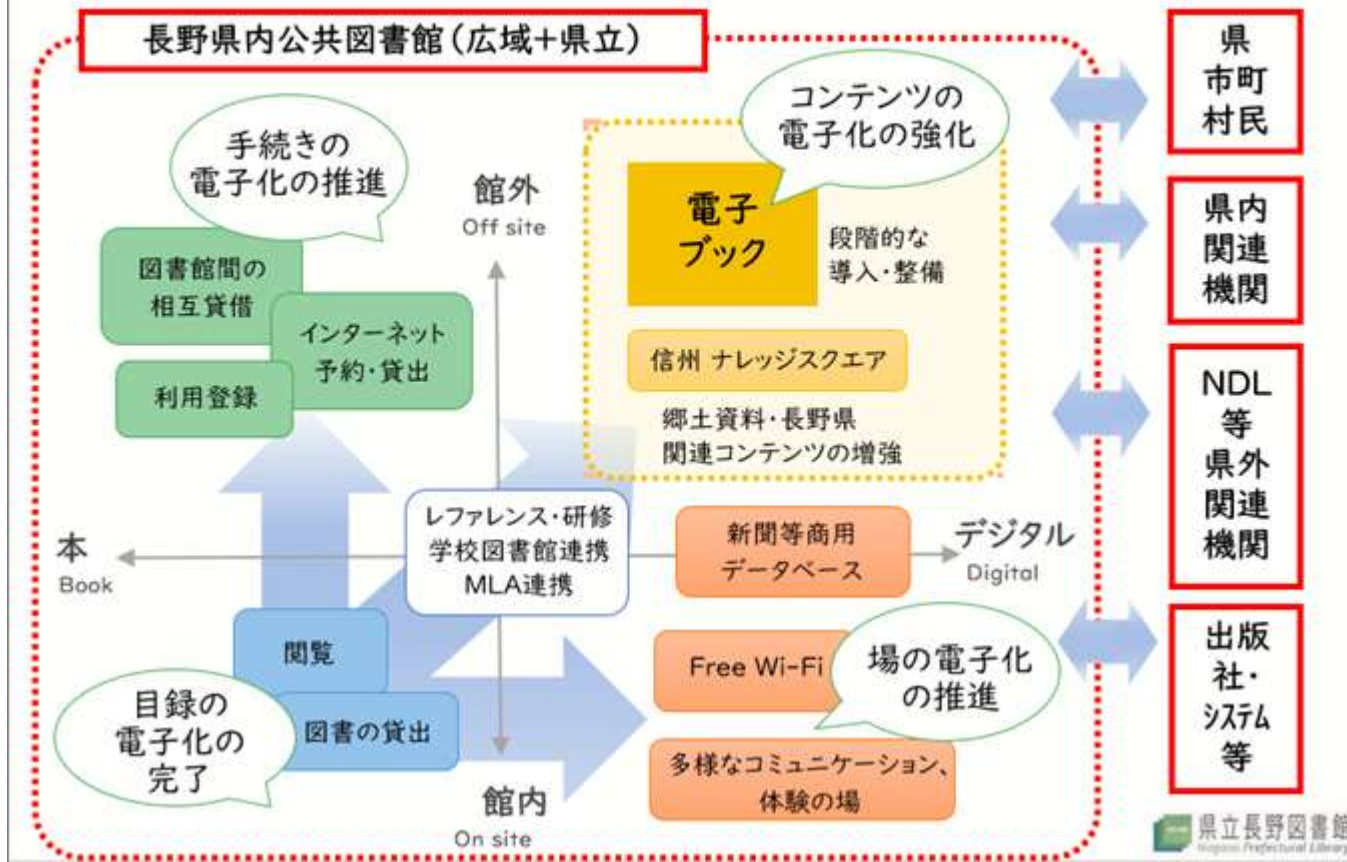
- (1) **資料・情報**：いつでも・だれでも・どこからでも、県民が生涯にわたり「知る・学ぶ」ための「資料・情報」を、収集・保存・活用・発信する情報基盤を進化させ、蔵書構成のあり方を総合的に見直します。 **重点事業その①**
- (2) **空間・場**：実空間である図書館の1～2階のフロア、3階の「**信州・学び創造ラボ**」を情報空間とつなぎ、それぞれの強みを生かし、融合させながら、知的活動が展開・循環する「場」を進化させます。
- (3) **人材育成**：潜在的な利用者を含めた、全ての県民の学び合い・知的な活動を支えるために、市町村図書館を始め、文化施設・教育機関、県内外の関心を共有するすべての人々と協働し、共に成長していきます。
- (4) **長野県eLibrary計画**：図書館の機能を「紙」と「デジタル」、「館内」と「館外」の軸で4つのカテゴリに分類し、それぞれ最適な方法でデジタル化・ネットワーク化を進め、図書館機能・サービスを進化させます。
「**信州 ナレッジスクエア**」の拡充と、**電子書籍サービスの新規導入**の検討を重点的に進めます。

 **重点事業その②**

 **重点事業その③**

参考：長野県eLibrary計画を、信州版図書館DXと位置付けた

2-1. 長野県eLibrary構想 (たたき台)



●「信州ナレッジスクエア」

- ・ オンラインで使えるサービスのメニューとして紹介
- ・ MLA機関のデジタルアーカイブのプラットフォームは準備ができていた
- ・ 現実には、市販の書籍や新聞へのニーズが高い
- ・ コロナ禍（休館の代替）での即効性はデジタルアーカイブより電子書籍。需要と供給のミスマッチ
- ・ 「無料の貸本屋」からの脱却を目指す方向性とのジレンマを抱えつつ・・・

●「電子書籍」の導入は必須 →検討開始

コンテンツの電子化については、デジタルアーカイブの拡充と電子書籍の新規導入を事業の2本柱とする

参考：DX（デジタルトランスフォーメーション）／DC（デジタルシティズンシップ教育）

● 図書館DX：伊藤大貴の視点・論点：

「ニューノーマルにおけるこれからの図書館－オンラインとオフラインの境界のない世界へ」『LRG』（2020年9月）

DXの定義 2004年
E. ストルターマン & A. クルーン
スウェーデン・ウメラ大学

ICTの浸透が、人々の生活（人生）をあらゆる面でよりよい方向に変化させること

- 哲学的（ソクラテス的）な概念
- 松尾芭蕉の「不易流行」（流行にこそ不易の本質がある）
- SDGs、ウェルビーイング、ウェルネスなどの考え方に共通点

45 INFORMATION TECHNOLOGY AND THE GOOD LIFE

Enik Stotterman
Anna Cron Fors
Umeå University

Abstract: The ongoing development of information technology creates new and increasingly complex environments. The lifeworld is drastically influenced by these developments. The way information technology is introduced in our daily life raises new issues concerning the possibility of understanding these new configurations. This paper is about the ways in which IS research can contribute to a deeper understanding of technology and the ongoing transition.

DXに至る3つの段階

第1段階 アナログの情報を、デジタル情報に変換する

★日本社会、とりわけ、日本の学校教育は長らく、この第1段階で停滞してきた

第2段階 組織や構造のプロセスをデジタル化する

第3段階 社会と私たちの生活がよりよい方向に変化

DX

私たちの社会や生活を「よりよい方向」へ変化させる

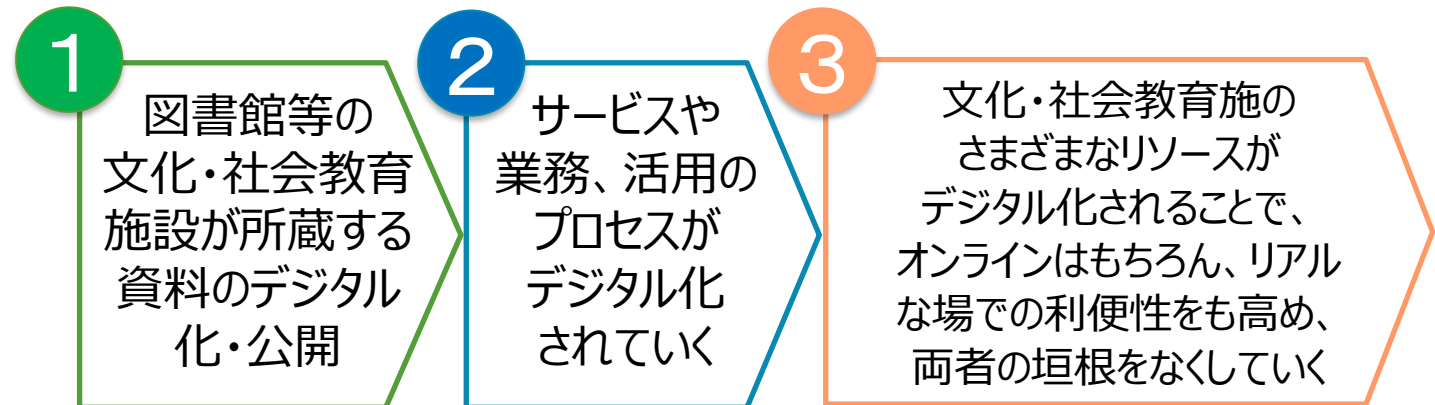
DXを達成するには、単なるICTの普及ではなく「ICTの健康的で、幸福な普及」が必要

そのためには、教育の力も必要

DC

デジタル・シティズンシップ教育
(デジタル時代のよき市民を育む教育)

※ 3つのスライドの典拠：
芳賀高洋氏（岐阜聖徳学園大学）
「学校教育DXとデジタル・シティズンシップDC」から引用
https://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/003/927/2021-5siryou1.pdf





県立長野図書館

信州・学び創造ラボ

学びの成果を
アウトプットする

モノコト
ベース

3Dプリンター、
UVプリンター、
レーザーカッター、
PC、展示棚 等

多様な情報や人がつながり
アイデアを形にしてい

ワークショップ用
テーブル・椅子、ベンチ
ミーティングブース
マイクロライブラリー
簡易キッチン 等

Co-learning
ゾーン

信州の知を集め、
つなぎ、創造する場

信州情報
探索ゾーン

六角形書架、
展示棚、
平置きタッチ
ディスプレイ、
信州白地図、
ホワイトボード
畳スペース 等

【活動のねらい】

- 「これからの図書館」における「空間」を切り口として、そこでの情報のあり方、情報と人の出会い方、人と人の出会い方（多様な学びのコミュニティの形成）などを試行する
- その成果を様々なモデルとして市町村立図書館・学校図書館等へ提案し、地域における情報拠点としてのこれからの図書館の姿を共に探っていくこと

- 文部科学省
「図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～」に掲載（R2.3）
- 全国知事会
「令和2年度優秀政策」に選出（R2.9）

Labo.Cafe#9 うなずき珈琲（それいいね！の会）（2020年9月）

- 誰かのやってみたいことが、自分のやってみたいことにつながり、広がる
- 集まれる状態なら、集まる。でも、オンラインでの参加の窓も開く



小さくてもいい、
おしゃべり可能なスペースと
飲み物OK（エリア・時間限定）
ができれば、実践できるかも



図書館でWifiが
使えれば、通信費を気にせずに
「デジとしよ信州」が読めるかも。
使い方講習会もできそう？

次の
アクション
へ！

フリースクールを作りたい
若者たちと、NPO活動を長年
続けてこられたベテランさん
との出会い

Labo.Cafe#16 居場所をかんがえる会 高校生×図書館編 (2022年7月)

- 一人で集中したい時、友達と話したい時、みんなの居場所はどんな場所？
- みんなにとって、図書館って？ 学校内のどのあたりに位置しているかも重要
- ネット情報のほうが手っ取り早く、効率的？ 抜け落ちるものは？、リアルで繋がる良さは？
- SNSなら、本音が出せる？ リアルタイムもいいけど、一人でじっくり深く考える意味もある
- 活字離れは本当に起こっている？ どんな問題があるの？ 等々



https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/news/labocafe_220724.html

● 「地域資料」の定義

- 『地域資料入門』（1999）
 - 当該地域を総合的かつ相対的に把握するための資料群
 - 地域で発生するすべての資料、および地域に関するすべての資料
- 根本彰 『情報基盤としての図書館』（2002）
 - その地域で発生する情報は、その地域の公共図書館しかできない仕事であり、その図書館が最終的な責任を持つ。（中略）地域資料サービスは、地方分権の動きの中で、図書館を再評価する一つのきっかけになる仕事。
- 図書館情報学用語辞典 第5版（2013） <https://kotobank.jp/word/郷土資料>
 - 「郷土資料」として：図書館の所在する地域や自治体に関する資料。地域資料ともいう。現在の公共図書館は、その地域についての資料を責任を持って収集することが業務の一つとして位置付けられており、それらのレファレンス質問に答えることも重要な業務となっている。

従来から、
重要な業務・サービスと
位置づけられてきた

● 「情報資源」の定義

- 情報の中で、利用者やシステムが利用時に価値を認めた情報
- エネルギー資源、不動産資源、物質資源と並ぶ用語

※出典 「情報資源・マルチメディア社会の将来に向けて」 平成12年2月28日 日本学術会議 情報資源・マルチメディア専門委員会

「地域情報資源」と「デジタルアーカイブ」

● 「地域情報資源」とは

- 地域を総合的かつ相対的に把握するための価値ある情報資源（地域で発生するすべての資料・情報、地域に関するすべての資料・情報）で、デジタル化されたものも含む

● 地域の公共図書館の重要な役割として

- 図書館の3要素「資料・情報」「空間・場」「人」を生かし、関係者と連携しながら
 - ① ボーンデジタル情報も含め「収集」「整理」「保存」「提供」し、レファレンスにおける利用も含めて「活用」する
 - ② 所蔵している地域情報資源を「デジタル化」「公開」する
 - ③ 新たに地域情報資源を「創出」したり「継承」する活動の場になる
- 上記①～③を「地域情報資源サービス」と位置付ける

「地域情報資源」と「デジタルアーカイブ」

- 「デジタルアーカイブ」は「地域情報資源サービス」実現の有効な手段の一つ
 - ・ 狭い意味のデジタルアーカイブは、県立長野図書館では「信州ナレッジスクエア」の中の「信州デジタルコモンズ」が相当する
 - ・ 「地域情報資源サービス」の実現という観点では、手段は多様化している（例えば、「デジとしよ信州」の電子書籍プラットフォームでも公開できる）
 - ・ 紙や様々な媒体の「地域情報資源」も含めて、**トータルで考えることが大切**なのではないか

※デジタルアーカイブの定義

- ・ 図書館情報学用語辞典 第5版（2013） <https://kotobank.jp/word/デジタルアーカイブ>
有形・無形の文化財をデジタル情報として記録し、劣化なく永久保存するとともに、ネットワークなどを用いて提供すること。最初からデジタル情報として生産された文化財も対象となる。

図書館が「地域情報資源」の「創出」にまで関わる根拠

● 公立図書館の任務と目標 （日本図書館協会1989年公表、2004年改訂）

- ✓ 公立図書館は、乳幼児から高齢者まで、住民すべての自己教育に資するとともに、住民が情報入手し、芸術や文学を鑑賞し、地域文化の創造にかかわる場である。

インプットだけではなく
アウトプットまでが
守備範囲

すべての年代の
人々の「知る・学ぶ・
創造する」場

賑わい創出、地域の課題解決など、
図書館という公共施設の
機能拡張への期待へとつながる

- ✓ 「地域文化の創造にかかわる」とは、情報が蓄積され、活用され、新たな「知」が生み出され、それがまた蓄積されていくという、「知」の循環を促していくこと
⇒「デジタル化」で、「空間・場」としての図書館の空洞化が起こるのでは？という懸念とは逆に、デジタルの力（特色）を活用することで、図書館という「空間・場」は、もっと活性化し、地域にとってなくてはならない存在になっていくのではないか

※ 自治体が設置する「公立図書館」と、法人等が設置する「私立図書館」を総称して「公共図書館」と呼ぶ。

「信州ナレッジスクエア」とは／「信州サーチ」



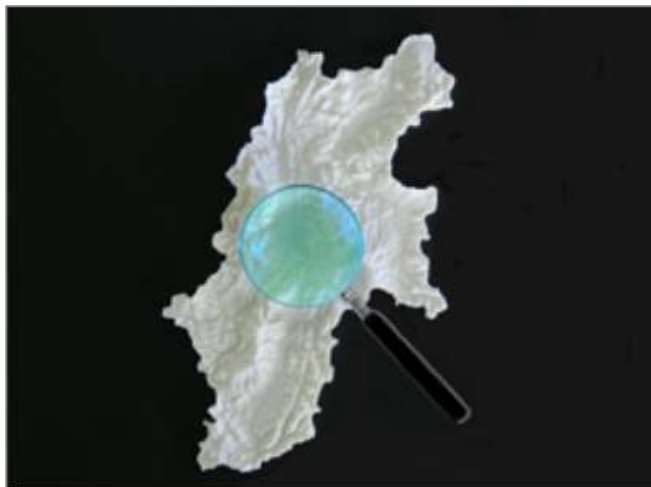
- 「ナレッジスクエア」＝「知識の広場」。5つのサービスの総称。
- 多様な文化を持つ信州各地に蓄積されてきた「地域情報資源」のポータルサイトとして、2020年3月に運用開始。
- **地域情報資源の「発見・公開」を実現する、情報基盤（プラットフォーム）**としての役割に加え、**「創造・継承」の場としての役割**も併せ持っている。

信州サーチ 「情報発見」の仕組み

- 19のデータベース、アーカイブが検索対象（今後も、対象を拡張予定）
- アーカイブ
 - ・ 信州地域史料アーカイブ（NPO長野県図書館等共同機構）
 - ・ 信濃史料データベース（長野県立歴史館）
 - ・ 木曽町図書館デジタルアーカイブ（木曽町図書館）
 - ・ ジャパンサーチ（国立国会図書館）
 - ・ 伊那市デジタルアーカイブ（伊那市）
 - ・ 信州デジタルコモンズ（県立長野図書館）

※「信州サーチ」検索対象一覧：

<https://www.knowledge.pref.nagano.lg>

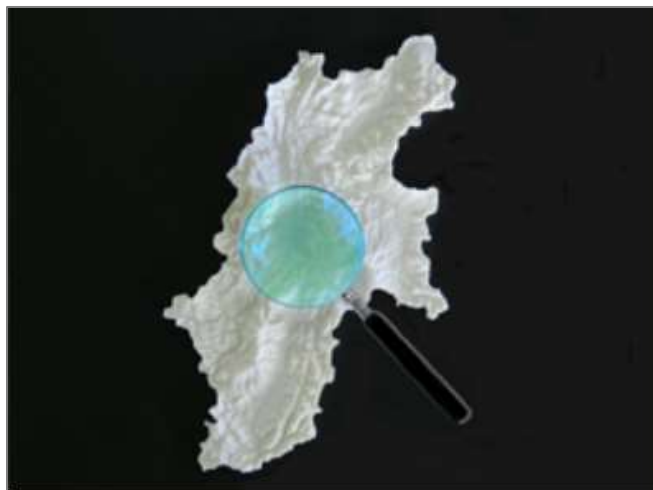


信州サーチ

世界から信州を探そう

県内外のデータベースやアーカイブの中から
「信州」に関することを探し出すことができます。
上の検索窓から検索できます。

「信州サーチ」(つづき)



信州サーチ

世界から信州を探そう

県内外のデータベースやアーカイブの中から
「信州」に関することから探し出すことができます。
上の検索窓から検索できます。

● 収蔵情報

- 長野県立歴史館（文献史料）（絵図・地図）（図書）収蔵品データベース
- 長野市立博物館Web公開システム（長野市立博物館）
- 真田宝物館収蔵品データベース（真田宝物館）
- 飯田市立図書館所蔵貴重資料（飯田市立図書館）
- 松本まると博物館収蔵品（松本市立博物館）

● 図書・論文

- 全国遺跡報告総覧（奈良文化財研究所）
- レファレンス協同データベース（国立国会図書館）
（トップページ下部・テーマから探す → 「地名：長野県」が対象）
- 信州ブックサーチ（県立長野図書館）

● 文化財

- 松本のたから（松本市の文化財）（松本市）

● リポジトリ

- 信州共同リポジトリ（信州共同リポジトリ）

● 文化・芸術情報

- CULTURE.NAGANO（カルチャー・ドット・ナガノ）（長野県）

「信州デジタルコモンズ」（いわゆるデジタルアーカイブ）



例：ローカル新聞が劣化して、保存も利用も難しい・・・館内にある複合機でPDF化して公開できないか？

「情報公開」の仕組み

- 信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し、「知の共有地」として活用するデジタルアーカイブ
- 県立歴史館、県立美術館、県立図書館が所蔵するコンテンツ（文化財、史資料のデジタル版）のほか、信州各地の文化をテーマにした動画等が公開済み（「信州デジくら」の後継）
- 県内MLA（Museum, Library, Archives）機関が**所蔵するコンテンツ**に加え、**公民館等の社会教育施設、学校、民間の持つ地域情報資源や活動の成果も対象**としている。
- **登録できるコンテンツ：**
 - 画像、音声、動画が対象となっていたが、1月から**PDFが搭載できる**ように機能拡張を行った。
 - 従来は難しかった、各機関による**行政資料や広報資料、成果発表資料なども公開が可能**となった。

「信州ナレッジスクエア」の「信州サーチ」→「信州デジタルコモンズ」を使ってみる

SHINSHU KNOWLEDGE SQUARE

生坂村

信州サーチ
信州の文化資源を
まとめてさがす

12件見つかりました。

絞り込み

☐ すべて

☒ アーカイブ

☐ 収蔵情報

☐ 図書・論文

☐ その他

POWERED BY カ-

生坂村絵図面

資料コード 03MP0801060150

タイトル 生坂村絵図面

分野 ☒ 歴史 ☐ 建造物

場所(市町村名) ☒ 生坂村

制作年(西暦) 1885

制作年(和暦) 明治18年

時代 ☒ 明治

制作者 長野県

制作者(ヨミ) ナガノケン

大きさ 27×69

資料解説

二次利用条件 ☒ PUBLIC DOMAIN

コピーライト 長野県立歴史館

施設名 長野県立歴史館



<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/index.html>

例：信州サーチで
「生坂村」を検索し、
「アーカイブ」で絞り込み
→信州デジタルコモンズ
「生坂村絵図面」

パブリックドメイン：
地域の歴史を学んだり、
二次利用して
新しいコンテンツを創る
材料として活用可能



知識が循環し、創造されていく基盤としての「信州デジタルコモンズ」

- 公的な機関だけではなく、地域の活動から生み出されるコンテンツも受入対象とする
「信州デジタルコモンズ」運用規程、「信州デジタルコモンズのデータ登録に関する確認事項」を公開
<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/portal/guide.html>



「どこコレ？ 信州篇」 地域情報資源を「創出」「継承」する事例

- 「どこコレ？」とは、撮影された場所がわからない古い写真を集め、地域の方々の経験や知恵によって、撮影場所を確定していく展示イベント。仙台メディアテークで始まりました。
 - 地域の歴史を知ったり、世代を越えた会話が生まれたりすることが魅力
 - 特定された情報が、デジタルアーカイブのメタデータとして活用できることにも期待
- フォーラム『まちの記憶を記録する ～「どこコレ？」のつくりかた～』
https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/mezasukoto/torikumi/miaforum_202107.html



信州篇のこれまでの実績

- 県立長野図書館@信州・学び創造ラボ
 - 2019年4月～6月
- 市立小諸図書館@ひだまりの広場
 - 2021年10月
- 信州大学@松本市中央図書館 1 Fロビー
 - 2022年8月～9月



← 市立小諸図書館の様子

「eReading Books」(付加価値付き電子書籍)



「情報公開」の仕組み

- 教材、ガイドブック等のキーワードが自動的に切り出され、Wikipediaや新書マップの情報と繋がる。
- テキストデータ付きのPDFがあれば、付加価値を付けた形での電子書籍として公開できる。
- 高校の探究学習『わたしたちの信州学』のほか、小学校副読本『わたしたちの松川村』『池田ものがたり』が公開済み。



「eReading Books」(付加価値付き電子書籍)

- 例：『わたしたちの松川村』 小学校の郷土学習の副読本。付加価値付きの電子書籍化
- キーワードから、ウィキペディアの該当項目や新書マップにリンク

紙のテキストに書かれているのは、固定化された情報＝重要
しかし、情報の内容を更新するために改訂版を出すのは、なかなかハードルが高い

ネットワーク上の信頼できる情報にリンクしていれば、より新しい情報にアクセスすることが可能！

昭和天皇 下

昭和天皇

日本最初の...の開発に挑み

日本最初の...
昭和天皇

15歳の東京...

よみがえれ!!
度成長期、少
箱

よみがえれ!!
昭和40年代

昭和天皇

昭和天

安曇節

安曇節(あずみふし)は日本の長野県松川村

いわさきちひろ

いわさき ちひろ(本名:松本 知弘(まつもと ちひろ、旧姓岩崎)、1918年12月15日 - 1974年8月8日、女性)は、子供の水

小学館児童出版文化賞

小学館児童出版文化賞(しょうがくかんじどうしゅっぱんぶんかしょう)は、小学館が1952年に創業30周年を記念して文学

安曇野ちひろ美術館

安曇野ちひろ美術館(あずみのちひろびじ)

中谷泰

中谷 泰(なかにや すし/なかに た

「うち(義父)は最初、一人でしたが、同じ心をお持ちの方と相談しながら進めました。みんな地元の方でした。不況で人の心が荒廃している時で、何か大勢の人のためになることを願って始めたようです。最初は自己資金でやっていたから大変でした。その後、**資料**や穂高方面の人が援助してくれました。それで歌詞も、その方面のものがたくさん採用されるようになりました」と語るのは息子の嫁の橋葉政子。昭和37年(1962)に惜しまれつつ79歳で亡くなった。

参考文献「**収蔵**」全資料 郷土出版局刊
「**母のふるさと**」郷土出版局刊 参照

いわさき ちひろ

1918 ~ 1974

絵本画家

プロフィール

大正7年(1918)12月15日、**福井県武生市**(現・**越前市**)で生まれ、**東京**に育つ。本名、知弘。父は**軍属**の建築技師。母は女学校教師。**東京府立第六高等女学校**を卒業。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。昭和21年(1946)、ちひろの両親が**松川村**(現・**安曇野ちひろ美術館所在地**)で開拓を始める。

昭和31年(1956)、小学館児童出版文化賞受賞。初めての**絵本**の仕事として『ひとりてできるよ』(福音館書店)を描く。昭和33年(1958)、紙芝居『お月まいくつ』(童心社)を描き、翌年、厚生大臣賞受賞。昭和35年(1960)、『あいうえおのほん』(童心社)を描き、翌年、サンケイ児童出版文化賞受賞。昭和41年(1966)、**黒姫高原**に山荘を建て、以後、毎年ここで**絵本**制作を行う。昭和46

豊科町(とよしなまち)は、長野県中西部の南安曇郡にあ

黒姫高原

黒姫山(くろひめやま)は、長野県上水内郡信濃町にある

サンケイ児童出版文化賞

産経児童出版文化賞(さんけい)

は、学
て19

越前
んし)は、
県の嶺北
の中南部に位

武生市(たけふし)は、福井県中部にあった市。福井市に次いで福井県第2の

No image

49/84

「eReading Books」 地域情報資源を「創出」「継承」する事例

● 「ウィキペディアタウンin安曇野松川村」 (2018.03.03)

- ✓ 「大和田神社」、「安曇野ちひろ公園」、「松川村図書館」
(以上、新規) 「安曇節」(加筆編集) の4項目を編集

<https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/events/7185.html>

<https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/other/7337.html/>

※詳細 棟田聖子氏 (松川村図書館)

「電子図書館、どう育てる？」 令和4年度第1回信州発・これからの図書館フォーラム Youtube動画
1:46:36 ~ <https://www.youtube.com/watch?v=AARREG-uH9k&t=7132s>



● 「ウィキペディアタウンin池田町」 (2021.11.28)

- ✓ 池田学問所、池田八幡神社 (以上、新規)、
浅原六郎 (加筆修正) の4項目を編集

<https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/events/15630.html>



- まち歩きをして現地を訪れたり、根拠となる文献を調べて編集した
ウィキペディアの事項に地域を学ぶテキストの「eReading Books」からリンクできる
⇒地域を学ぶこと地域情報を創ることで「知の循環」が起こっている

「想・IMAGINE・信州」／「信州ブックサーチ」



想・IMAGINE・信州 「情報発見」の仕組み

- 言葉や文章から連想して、複数のデータベースを検索。キーワードそのものではなく、そこからの連想で検索するので、幅広く様々な情報を発見することができる
 - 対象DB: 県立長野図書館蔵書、新書マップ、WebcatPlus、ウィキペディア

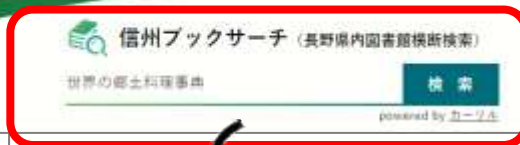
信州ブックサーチ 「情報発見」の仕組み

- 長野県内図書館OPACの横断検索システム→電子書籍2種「市町村と県による協働電子図書館：デジとしよ信州」と「県立長野図書館電子書籍サービス」も検索対象になっている。



「信州ブックサーチ」の活用による、蔵書＋電子書籍の検索・発見の仕組み

- 県内公共図書館のOPAC, 2つの電子書籍を一括で検索できる

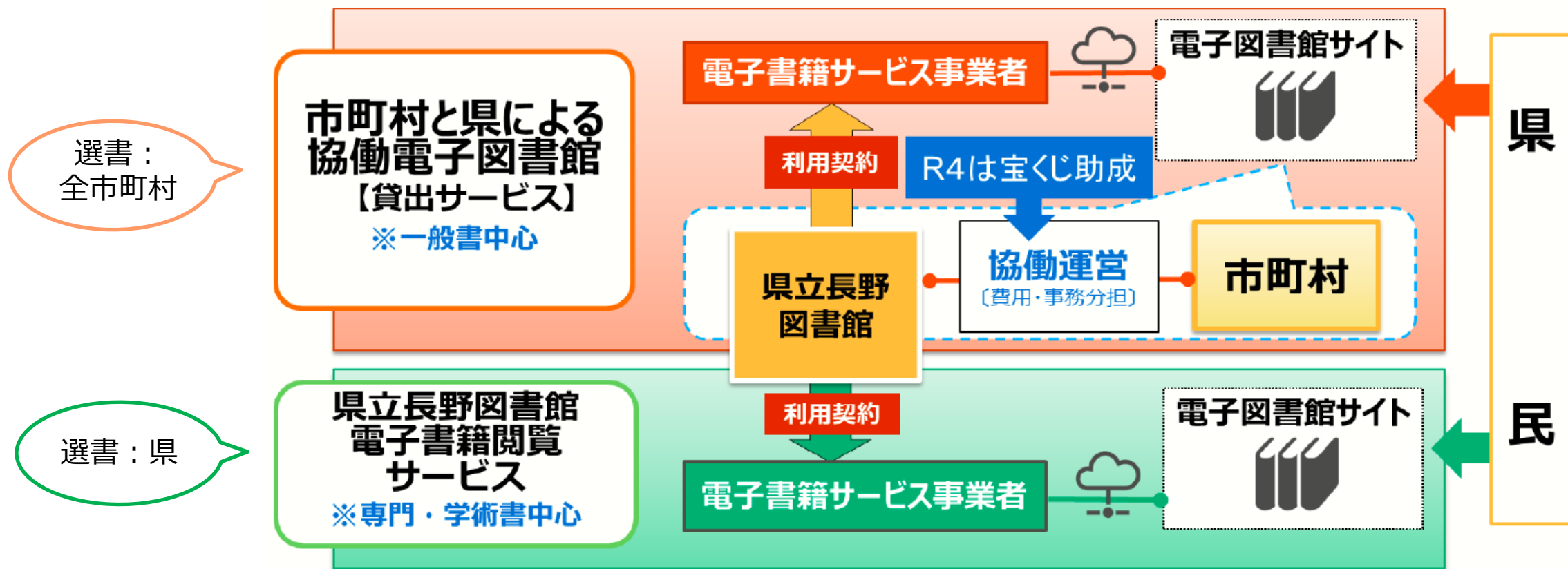


地域で絞り込み	タイトル	著者名	出版者	出版年	ISBN	所蔵館
すべて	世界の郷土料理事典：全世界各国・300地域 料理の作り方を通して知る歴史、文化、宗教の食規定	青木ゆり子	誠文堂新光社	2020	9784416620175	
県立長野図書館						
中信エリア						
北信エリア						
南信エリア						
東信エリア						
大学など						
電子図書館						
	22館所蔵					
	県立長野	松本市	塩尻市	安曇野市	大町市	池田町
	木祖村	朝日村	長野市	須坂市	千曲市	諏訪地域
	南信州地域	佐久市	御代田町	上田地域	デジとしよ信州	駒ヶ根市
	県立電子書籍					
	世界の郷土料理事典 全世界各国・300地域料理の作	青木 ゆり子/著	誠文堂新光社	2020.06		
	世界の郷土料理事典：全世界各国・300地域料理の	青木 ゆり子				

県内の
書店情報に
繋がられないか
検討中

市町村と県、それぞれの役割を果たすための2つの電子書籍サービス

- 「一般書の電子書籍貸出サービス」として、株式会社メディアドゥ「OverDrive」
- 「専門書の電子書籍閲覧サービス」として、株式会社紀伊國屋書店「KinoDen」



市町村と県による協働電子図書館（「デジとしよ信州」） 2022年8月スタート



● 協働の役割分担：

- ✓ 基盤的経費（初期設定費／プラットフォーム費）：県立図書館で契約・維持
- ✓ コンテンツ費：77市町村の負担金（初年次のみ県・企業局こども支援経費からも拠出）

- 現在のコンテンツ数：
（青空文庫11,000点含む）20,000点以上
- R4は市町村振興協会の宝くじ助成金をコンテンツ費として支給いただく（R4は負担金なし→R5から集める）
- 長野県内に在住・通勤・通学している人は、誰でも、いつでも、どこからでも利用可能
- 夏のDigi田甲子園：
長野県代表の一つとして出場
[PR動画](#)（1分）
⇒実装部門5位
⇒デジタル庁「デジタルの日」
広報ポスターに起用
⇒早稲田大学マニフェスト
研究所「地方創生カレッジ」
からの取材



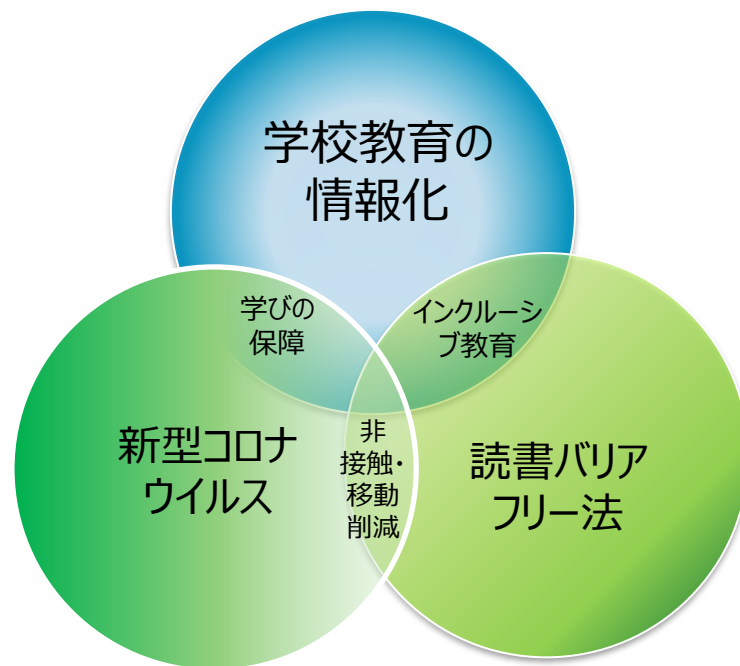
電子書籍サービスの新規導入に向けて

そもそも図書館の本来の役割は

- すべての住民が自由に「情報」へアクセスできる基盤をつくること



- 学校の教育課程の展開に寄与
- 児童生徒の健全な教養の育成



3つの社会課題に同時に向き合う手段の一つが「電子図書館」

- しかし、単独では予算面、運用面でハードルが高い



市町村と県とが協働して電子図書館のサービスを構築できないか

✓ 書籍へのアクセスを保障

「感染状況」「災害」等になるべく影響されず、図書館サービスを提供し続ける環境をつくる。

+

✓ リーチを拡げる

「地理的条件」「生活スタイル」「特別な配慮の要否」等により 図書館を利用しにくかった人たちにサービスを届ける。

図書館利用率：
住民の3割程度
→残りの7割への
アプローチ！

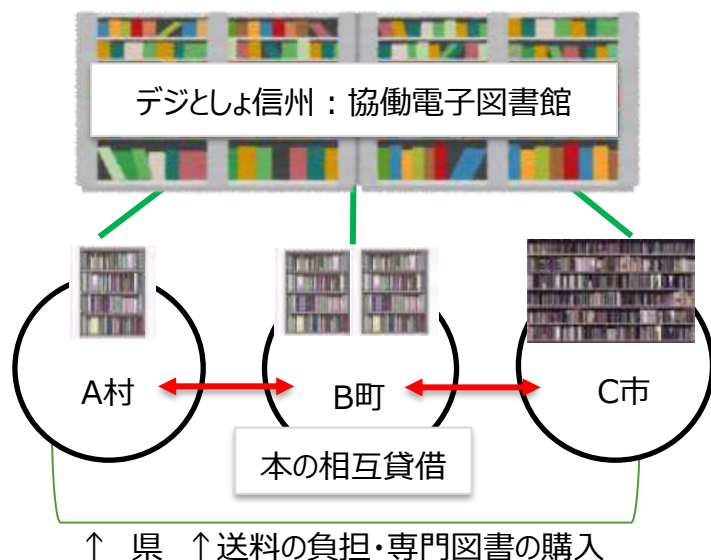
従来からの協力体制の延長線上に、新しい図書館間連携体制を築く

- 共通の課題を解決する方策として、協働電子図書館（仮称）によって、さまざまな「情報格差」の解消を図る。
- 電子化で生じる「情報格差」も起こり得るため、広報や利用支援も協働で取り組む。
- 「誰一人取り残さない」「持続可能な地域・社会」を実現する方策として関係各所の連携を視野に入れる。

解 決 策

ハイブリッド図書館の場合

- 「電子書籍サービス」を全市町村と県が協働して提供
＝ 住民サービスの充実



■ メリット

- 蔵書の不足分の増強。付加価値のあるコンテンツ。
- 紙と電子との組み合わせでスペース問題が軽減。
- 図書館が未設置でも電子書籍が使えることで学びの環境が強化。
- 図書館の利用をしていなかった潜在的な利用者層への呼び水となる（読者層が広がる。図書館利用の契機になる）。

■ 期待される効果

- いつでもどこでも情報アクセス
- 情報格差の解消へ一歩前進
→ 学びの多様化・学び手の増加
→ 各自治体の活力増進に期待！

目的や好みに応じて
使いたい媒体を選択



来館でも非来館でも
選択の幅を広げる

協働事業「デジとしよ信州」のコンセプト（プロポーザル説明資料より）

- 市町村図書館と県立図書館との従来からの役割分担を活かしながら、全県民を対象としたサービスを可能にするための枠組みです。
- 全県的に、より多くの豊富なコンテンツを整備し、県民にとって身近なサービス拠点を作ることが重要です。このため、全ての市町村（条例による図書館未設置自治体を含む）と県による事業として構築しています。
- サービス運用にかかる個々の自治体の負担を軽減し、ノウハウを共有できることも重要です。例えば、利用申請のしかたや、広報のしかたなどはひな形を協働で作成して、各自治体で展開します。
- 各自治体が、これまでの図書館サービスと電子図書館を組み合わせ、主体的かつ全体的な視点で取り組める枠組みであることも、大切です。
- 5年間の事業（試行2年、本運用3年）で実績を分析・評価し、その後のサービスのあり方について検討・見直しを行います。

R4年4月～：運営委員会体制（全体会議・総括会議・部会＋チーム）

市町村と県による協働電子図書館 運営委員会

運営委員長

外部団体（メディア・組織等）折衝 / 委員会の招集

県立長野図書館長

運営委員会副委員長

事業のとりまとめ・委員会内意見調整

市町村の運営委員から互選

運営委員会委員

事業検討 / 資料作成 / 情報提供、意見調整など

信州協働電子図書館に参加する団体
＋県 ＋オブザーバー
(事務局：県立長野図書館)

全体会議（全ての参加団体）

「運営委員会要領」第3条に定める
運営委員の1/2の出席により成立
重要事項の決定機関

「運営委員会要領」第4条に定める

運営委員長、副委員長、各部会長、
参加団体及び長野県の推薦する者

総括会議

議長：運営委員会副委員長
実務面の決定機関
10名程度

読書バリアフリー

チーム員：3名

学校連携

チーム員：6名

オリジナルコンテンツ

チーム員：4名

「運営委員会要領」第5条に定める

利用登録部会

部会員：6名

選書部会

部会員：15名

利用者支援・ 広報部会

部会員：11名

システム部会

部会員：5名

利用者ID、利用登録にかかる事項

「運営規程」第6条に定める
「利用に関する要綱」
（「運用マニュアル」）
上記にかかる職員研修

コンテンツにかかる事項
「運営規程」第7条に定める
「コンテンツ選書基本方針」
「コンテンツ選書基準」
（「選書の手順」）
上記にかかる職員研修

「運営規程」第8条に定める
利用支援にかかる事項
「運営規程」第9条に定める
広報にかかる事項
上記にかかる職員研修

「運営規程」第10条に定める
システム運用の助言にかかる事項
各部会から1名は必ず参加する

「運営委員会要領」を改正（2022/11）
→部会を横断する課題解決チームの設置を第5条に定める

「デジとしよ信州」の主なターゲット（「コンテンツ選書の手順（コンテンツ内容）」より）

- 利用対象は全県民
- 事業目的にそって、特に以下の利用対象に資することに留意する

GIGAスクールの
キラーコンテンツ
として期待？

- ✓ GIGA スクール構想等で、電子書籍を読むタブレット等を使いやすい環境にある児童および青少年
(IT リテラシーが高く、電子書籍を利用する障壁が低い傾向がある。
ただし、紙メディアや肉声の良さも考慮しながら、バランスよく活用していきたい)
- ✓ リアルな図書館に足を運ぶことが困難な高齢者や、読書に関わる障害がある方
(文字の拡大機能などがある電子書籍を、自宅などから居ながらにして利用できることで、
読書環境が改善されることが期待できる)
- ✓ 開館時間に利用することが困難な子育て世代や働く世代
(24 時間 365 日、来館することなく使える電子書籍によって、図書館の利用が
生活スタイルに馴染まなかった層の読書環境が改善されることが期待できる)

読書バリアフリーの一助に

現在の強みをさらに活かし、
ターゲットごとに有効な広報を

相互貸借で、特定の人漫画や
実用書が多いことに悩み
⇒「デジとしよ信州」をご紹介したら喜ばれた！

「デジとしよ信州」今後の重点取組事項：3つのチームを立ち上げて取組中

- 電子書籍サービス（インターフェイス、コンテンツ内容）の充実・予算の確保：
 - ・ ビジネスモデルとコレクション構築のバランス、紙と電子のバランス（出版点数との兼ね合い）
- 読書バリアフリー：
 - ・ 視覚障がい者向け電子図書館サービス「アクセシブルライブラリー」の早期導入や、福祉関係団体と連携して障がい者向けサービスの総合的な展開の検討
 - ・ 情報リテラシー向上
- 学校教育との連携：
 - ・ 教育現場や家庭等の方針に配慮しつつ、希望する自治体・学校と連携
 - ・ 教材利用等、授業や読書推進活動、学校図書館との連携などの方策を検討
- 地域資料の充実：
 - ・ 学校の副読本、自治体作成のオリジナルコンテンツを電子書籍化、デジタルアーカイブ化
 - ・ 地域出版物の有料コンテンツ化・アーカイブ化
- 著作権者や本に関わる関連業界（出版・印刷・書店・取次）とのWin-Winな関係作り

高森町の事例や、北海道の事例から、市販の電子書籍を提供／消費するだけではないあり方のヒントを得る

地域資料の充実が学校連携でも有効！

「デジとしよ信州」学校教育での活用の可能性：できること・できないこと

● 利用登録について：

- ✓ 先生方や司書の皆さんと同様に、児童・生徒の皆さんが個人として公共図書館に登録して利用していただくことが可能
- ✓ 「デジとしよ信州」としての年齢制限は、運用上設けていない（推奨するかどうかは各自治体の判断）
- ✓ 団体IDは不可（学校やクラス単位で一つのIDを使いまわすことは、システムの契約上できない）
- ✓ 個人のIDを学校やクラス単位でまとめて公共図書館に申請する方法（高森町で実績あり）について、学校連携チームで検討中

● 同時アクセス：原則として同時アクセスは 1

- ✓ 例えば、児童・生徒が朝の読書活動などで個別の電子書籍を借りて読むことや、調べ学習に用いることは可能
- ✓ 日本語の購入コンテンツは、授業等で一斉に同じコンテンツにアクセスすることはできない
- ✓ 洋書のコンテンツは、学校等での同時アクセス利用が可能！英語の授業などで使っていただけそう（ただし、日本の出版社が刊行する英文コンテンツは、同時アクセス 1）

「デジとしよ信州」への地域資料の搭載について 先行事例に学ぶ：高森町の事例

- 現在、オリジナルコンテンツチームで「デジとしよ信州」の画面表示、登録方法を検討中
 - ✓ 従来、ファイル形式はePUB3のみだったが、新たにPDFが搭載可能になり、選択肢が増えている

[メインコレクションに戻る](#)
言語 ▼

TAKAMORI TOWN LIBRARY

高森町の資料

テーマ コレクション ▼
 検索
サインイン

電子図書館の利用方法については、[こちらのヘルプページをご覧ください](#)

高森町の資料

貸出可能	貸出可能	貸出可能	貸出可能	貸出可能	貸出可能
 高森町の動植物 高森町作	 宮下正美著作集 資料編 高森町作	 市田郷の豪族 松岡... 電子書籍	 拓け行く高森 戦後... 高森町公民館作	 市田酪農のあゆみ ... 市田酪農組合作	 高森百年の写真史 ... 高森町歴史民俗資料...

著作権処理が
容易なものなら、
ハードルが低そう

実際に、教材
として使えるような
コンテンツを
先生に聞いてみる？

「デジとしよ信州」への地域資料の搭載について 先行事例に学ぶ：高森町の事例

● 高森ほんともWeb-Libraryの地域資料

- ✓ OverDrivenには、「ローカルコンテンツ」の登録機能がある
- ✓ コンテンツ数：49
- ✓ 何をコンテンツにするか？ 初年度の優先度
 - 町としての重要度（『町史』は優先順位高い）
 - 中学校の総合学習で実際に活用するもの
 - 出版時にデジタルデータを同時に制作したもの（コンテンツ数：5、その他は紙から電子化）
- ✓ 同時アクセス：50（紙の本なら50冊必要だが、電子なら一つのコンテンツを同時に使える）
 - アクセス数：設定による。
 - システム上は、同時アクセスの制限をしないことも可能

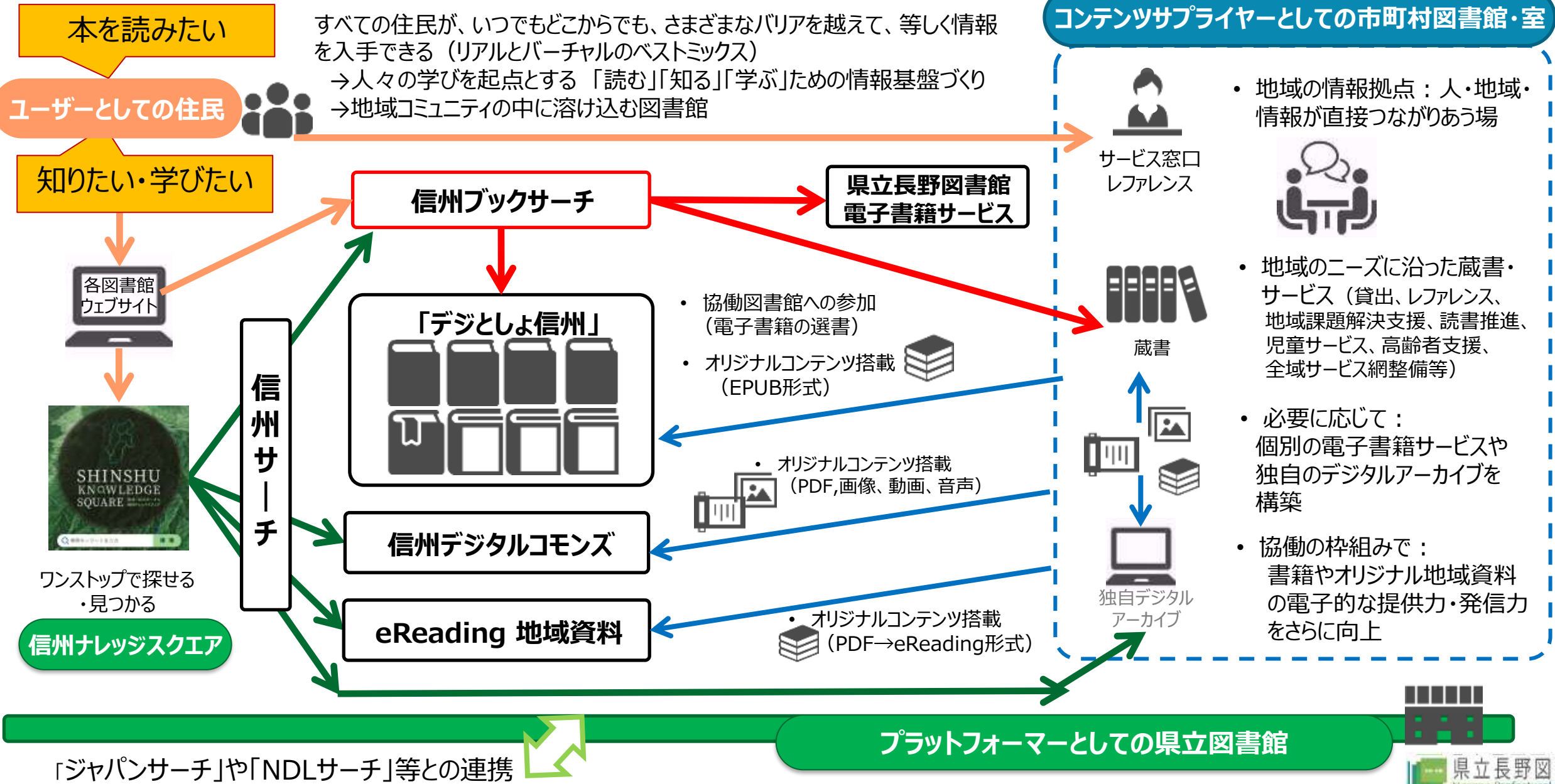


※詳細 宮澤優子氏（高森町立高森北小学校・学校司書／高森町子ども読書支援センター）
「電子図書館、どう育てる？」 令和4年度第1回信州発・これからの図書館フォーラム
Youtube動画 1：34：50～

<https://www.youtube.com/watch?v=AArREG-uH9k&t=7132s>

信州サーチによるカテゴリーを越えた検索・発見の仕組＋コンテンツサプライの仕組

41



信州の「地域情報資源」をより豊かにしていくために

● 確実な持続性と堅固なシステム基盤

- ・ セーフティネットとしての位置づけ、コンテンツの相互保全、継承

※ 基盤整備は県で。予算を獲得し続けること

取組に共通すること：
「使ってもらう」だけではなく
「共に知り、共に創る」観点
+ **対話とプロセスを重視**

● 人々の活動成果や暮らしの知恵が蓄積され続ける文化

- ・ 自治体内の関連部署（生涯教育、学校教育、観光、地域・産業振興など）

住民や企業との協働も視野に

- ・ MLAの文化資産
- ・ 公民館や学校活動で生み出されるもの
- ・ 日々の営みの中で生み出されるもの

※ コンテンツの作成費・活動の経費はそれぞれで

いついかなる時も、人々の
「知る」「学ぶ」を支えるために。
**「地域社会」の過去・現在を
未来につなぐ**

● 国立国会図書館や、さまざまな機関、活動との連携

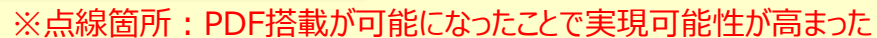
- ・ システム基盤、コンテンツ作成、活用の場づくり、人材育成

「国立国会図書館デジタルコモンズ」も
検索してみよう！意外と地域資料が
既に電子化されているかも！？
→著作権処理ができれば
インターネット公開の対象に

※ *If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.*

早く行きたければ、ひとりで行け。遠くまで行きたければ、みんなで行け

…by DX推進課



「ちょっと未来」の自分に向けたワーク

- ① 今日のお話を聴いて「デジタルと紙のベストミックスで目指す」
「ちょっと先の図書館の未来」について
風景や人々の姿がイメージできましたか？**

⇒ イメージしたことを、お手元のワークシートに記入してください。

- ② イメージしたことを実現するために、どんな一歩が踏み出せそうですか？**

⇒ 具体的な「一歩」を一つでもOKなので記入してみてください。

⇒ その一歩を踏み出すために、誰とどんなことを話してみたいか、記入してください。